

# 專門基礎分野

# I 人体の構造と機能及び心身の発達

大項目	中項目	小項目
1 解剖学	A 総論	a 定義、分類
		b 発生等
	B 骨格系	a 骨の構造と分類
		b 骨吸収と骨形成
		c 関節の構造と分類
		d 各部の骨・関節・靭帯
	C 筋系	a 筋の構造と形態
		b 各部の筋・腱
	D 神経系	a 中枢神経系
		b 末梢神経系
	E 脈管系	a 心臓
		b 動脈系
		c 静脈系
		d リンパ系
F 内臓諸器官	a 消化器	
	b 呼吸器	
	c 泌尿器、生殖器	
	d 内分泌腺	
G 感覚器	a 視覚器、平衡聴覚器、皮膚受容器等	
H 体表解剖	a 動脈	
	b 神経	
	c 筋	
	d 骨	
	e 関節	
I 応用解剖（機能解剖・局所解剖・断層解剖を含む）	a 中枢神経系	
	b 筋、骨格、末梢神経系	
	c 内臓諸器官	
J 組織	a 細胞の構造と機能	
	b 細胞の分化（遺伝子、DNA等）・老化・死	
2 生理学	A 総論	a 細胞生理
		b 再生医学の基礎
	B 筋	a 筋線維の構造と機能
		b 筋収縮
	C 神経	a 神経線維の構造
		b 興奮と伝導
		c シナプス伝達
		d 反射
		e 受容器－感覚神経伝達
		f 神経－筋接合部の伝達
		g 中枢神経（高次脳機能を含む）
h 末梢神経		
i 可塑性		

# I 人体の構造と機能及び心身の発達

大項目	中項目	小項目
2 生理学	D 感覚、認知	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 内臓感覚
		c 視覚
		d 聴覚、平衡覚
		e 嗅覚、味覚
		f 認知機能
	E 言語、発声構音	a 発声器官
		b 言語中枢
	F 運動	a 運動単位
		b 随意運動
		c 筋緊張
		d 運動における生体の生理的变化
	G 自律神経	a 交感神経系
		b 副交感神経系
	H 呼吸	a 呼吸運動（気道内圧、肺の容積変化を含む）
		b ガス交換とガスの運搬
		c 酸塩基平衡
		d 呼吸中枢
	I 循環（心臓の機能を含む）	a 循環の調節（血液とリンパの循環）
		b 心筋の特性
		c 心臓拍動の自動性と心拍出量
		d 心臓の刺激伝導系
	J 血液、免疫	a 血液の成分
		b 血液の細胞成分の生成と分化
		c 血液凝固と線溶現象
		d 免疫機能
	K 咀嚼・嚥下、消化、吸収	a 唾液分泌の機序
b 咀嚼・嚥下運動と嚥下反射中枢		
c 胃内消化（胃液分泌、蠕動運動を含む）		
d 腸内消化吸収		
e 肝臓・胆嚢・膵臓の機能		
f 消化酵素		
g 栄養素と吸収部位		
L 腎、排尿	a 尿の性状	
	b 糸球体・尿細管の機能	
	c 排尿機構（排尿中枢を含む）	
M 排便	a 胃大腸反射等	
N 内分泌、栄養、代謝（生化学の基礎を含む）	a ホルモンとビタミン	
	b 糖・蛋白・脂質代謝	
	c 代謝率（基礎・エネルギー代謝率を含む）	
O 体温調節	a 体温調節中枢	
	b 熱の産生と放出の機序	

# I 人体の構造と機能及び心身の発達

大項目	中項目	小項目
2 生理学	P 生殖	a 勃起、射精 b 排卵、月経、妊娠、出産
	Q 老化	
3 運動学	A 総論	a 定義、目的
		b 力学の基礎
		c 運動器の構造と機能（機能解剖を含む）
		d 運動の中樞神経機構
		e 運動とエネルギー代謝
		f 運動と呼吸・循環
	B 四肢と体幹の運動	a 顔面・頭頸部の運動
		b 上肢帯と上肢の運動
c 下肢帯と下肢の運動		
d 体幹の運動		
e 呼吸運動		
C 動作解析		
D 姿勢		
E 歩行		
F 運動制御と運動学習		
4 人間発達学	A 総論	a 定義、目的
		b 発達理論
		c 発達段階と発達課題
		d 発達評価（改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、子どもの能力低下評価法〈PEDI〉等）
		e 運動発達（原始姿勢反射を含む）
		f 精神発達
		g 心理社会的発達
	B 各期における発達	a 胎生期
		b 小児期
		c 青年期
		d 成人期
		e 老年期
f その他		

## II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目	
1 医学概論	A 科学的思考の基盤	a 医学の歴史	
		b 健康と疾病の概念、疾病分類	
		c 演繹と帰納、推論、科学的検証、臨床意思決定、ガイドライン	
	B 人間と生活	a コミュニケーション、人間関係	
		b 生命倫理、医の倫理	
	C 社会の理解	a 地域社会、共生社会、多様性社会	
2 病理学概論	A 病因論（内因・外因を含む）		
	B 病理学的変化	a 循環障害（ショックを含む）	
		b 進行性・退行性病変	
		c 炎症・感染・免疫・アレルギー	
		d 腫瘍・新生物	
		e 奇形・遺伝	
		f その他	
	C 生体反応	a ホメオスターシス	
		b ストレス	
	3 臨床医学総論	A 疾病の診断	a 問診、身体所見、記録
b 生化学検査			
c 生理検査			
d 画像検査			
B 薬物療法（薬理を含む）			
C 外科的治療		a 手術・カテーテル治療・その他の侵襲的治療	
D 栄養管理			
E 救命救急医療		a 救命救急処置（心肺蘇生法、AEDを含む）	
F 疾病の予防			
4 リハビリテーション医学		A 総論	a リハビリテーション医学の定義と歴史
			b リハビリテーション医学の特徴
			c 研究法（臨床疫学、医療統計を含む）
	B 健康と生活機能の評価	a 医学的情報（病理・生理・画像診断を含む）の評価	
		b 心身機能・身体構造の評価	
		c 活動の評価	
		d 参加の評価	
		e 背景因子（環境因子および個人因子）の評価	

## Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
4 リハビリテーション医学	C 機能障害の評価とリハビリテーション	a 運動障害（運動麻痺、筋力低下、持久力低下、筋萎縮、関節拘縮、運動失調、痙縮、固縮を含む）
		b 動作の障害
		c 呼吸障害
		d 循環障害
		e 代謝・内分泌障害
		f 発達障害
		g 構音障害
		h 視覚障害
		i 聴覚障害
		j 高次脳機能障害
		k 疼痛
		l 摂食嚥下障害
		m 栄養障害
		n 排尿障害
	o 排便障害	
	p 精神・心理障害	
	D 活動制限の評価とリハビリテーション	a 日常生活活動〈ADL〉の制限
		b 手段的日常生活活動〈IADL〉の制限
	E 参加制約の評価とリハビリテーション	
	F リハビリテーション計画	a リスク管理
		b 機能的帰結の予測
		c リハビリテーションプログラムの立案
	G リハビリテーション治療	a 理学療法
		b 作業療法
		c 言語聴覚療法
		d 義肢・装具療法
		e 運動学習
		f 基本動作練習
		g 応用動作練習
		h バイオフィードバック療法
		i 神経ブロック（ボツリヌス療法含む）
		j 心理的アプローチ
		k リハビリテーション機器（杖、車椅子、座位保持装置、環境制御装置を含む）
		l 摂食機能療法
	H 廃用症候群（不動を含む）	a 疫学
		b 病理、病態、症候
		c 評価、検査（画像、生理検査を含む）
		d 治療

## II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
5 臨床心理学	A 基礎理論	a 歴史
		b 防衛機制と転移
		c 学習、記憶、行動
	B 発達心理および臨床心理	a 児童・青年期心理
b 成人・高齢者心理		
c 患者・障害者心理		
C 臨床心理検査法		
D 心理療法およびカウンセリング		
6 精神障害と臨床医学	A 疫学、予後	a 症状性を含む器質性精神障害
	B 病因、症候	b 精神作用物質使用による精神および行動の障害
		c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断	d 気分障害〈感情障害〉（躁うつ病、うつ病を含む）
		e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
		f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群（摂食障害、非器質性睡眠障害を含む）
	D リハビリテーション治療	g 成人のパーソナリティ及び行動の障害
		h 精神遅滞（知的障害）
		i 心理的発達の障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）
		j 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害等）
		k てんかん
E 栄養、薬剤、その他の治療（精神療法を含む）		
7 骨関節障害と臨床医学	A 疫学、予後	a 変形性関節症、人工関節置換術後
	B 病理、症候	b 骨折、脱臼、靭帯損傷
		c 関節リウマチとその近縁疾患
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断	d スポーツ外傷、スポーツ障害
		e 脊椎疾患（椎間板ヘルニア、脊椎症を含む）
		f 腰痛症
	D リハビリテーション治療	g 切断（先天奇形を含む）
		h 肩関節疾患（肩関節周囲炎、腱板損傷を含む）
	E 栄養、薬剤、その他の治療	i 骨粗鬆症
		j 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死を含む）
		k 先天異常、系統疾患（骨端症を含む）
l 骨軟部腫瘍		

## Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目	
8 慢性疼痛と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 慢性腰痛
	B 病理、症候		b CRPS 〈complex regional pain syndrome〉 (肩手症候群を含む)
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		c 視床痛
	D リハビリテーション治療		d 幻肢痛
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e その他 (帯状疱疹、三叉神経痛等)
9 中枢神経の障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 血管障害 (頭蓋内出血、脳梗塞を含む)
	B 病理、症候		b 感染・炎症性疾患 (脳炎、髄膜炎、脊髄炎、ヒト免疫不全ウイルス 〈HIV〉 による神経障害を含む)
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		c 変性ならびに脱髄疾患 (Parkinson 病とその関連疾患、脊髄小脳変性症 〈SCD〉、運動ニューロン疾患、認知症、多発性硬化症 〈MS〉)
	D リハビリテーション治療		d 外傷 (外傷性脳損傷 〈TBI〉、脊髄損傷)
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 腫瘍
10 末梢神経・筋の障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	f てんかん
	B 病理、症候		g 視覚・聴覚障害
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		a 末梢神経・筋疾患 (多発性ニューロパチー、筋ジストロフィー等)
	D リハビリテーション治療		b 外傷 (絞扼性神経障害を含む)
	E 栄養、薬剤、その他の治療		c 腫瘍
11 小児の障害と臨床医学	A 保健、疫学	A S E に 共 通	a 脳性麻痺
	B 病理、症候		b 水頭症 (Arnold-Chiari 奇形等)
	C 評価、検査 (画像・生理検査を含む)、診断		c 二分脊椎
	D リハビリテーション治療		d 悪性腫瘍
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 遺伝子病、染色体異常、系統疾患 (先天奇形、Down 症候群を含む)

## II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目	
1 2 内部障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉、間質性肺炎、誤嚥性肺炎等）
	B 病理、症候		b 循環器疾患（心臓疾患、末梢動脈疾患、静脈・リンパ管疾患）
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断		c 消化管・肝胆膵疾患
	D リハビリテーション治療		d 腎・泌尿器疾患（慢性腎臓病等）
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 生殖器疾患
			f 血液疾患、自己免疫疾患、免疫不全
			g 内分泌・代謝疾患（糖尿病、栄養障害、サルコペニアを含む）
			h その他（臓器移植後等）
			注：それぞれの疾患には感染症を含む
1 3 がん関連障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 脳腫瘍
	B 病理、症候		b 頭頸部腫瘍
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断		c 呼吸器・胸郭内腫瘍
	D リハビリテーション治療（リンパ浮腫治療を含む）		d 消化器腫瘍
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 骨腫瘍
			f 女性器の腫瘍
			g 血液腫瘍・骨髄移植
			h 転移性腫瘍
			i その他
1 4 老年期障害と臨床医学	A 疫学、予後	A S E に 共 通	a 老年症候群および虚弱
	B 病理、症候		b 認知症
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断		c うつ状態
	D リハビリテーション治療		d 末梢循環障害
	E 栄養、薬剤、その他の治療		e 誤嚥性肺炎
			f 骨粗鬆症、骨折
			g せん妄
			h サルコペニア、フレイル
			i 摂食嚥下障害
			j 栄養障害
	k 緩和ケア（ターミナルケアを含む）		

## Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
1 5 その他の障害と臨床医学	A 疫学、予後	a 熱傷
	B 病理、症候	
	C 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断	
	D リハビリテーション治療	
	E 栄養、薬剤、その他の治療	

A  
S  
E  
に  
共  
通

### Ⅲ 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

大項目	中項目	小項目
1 保健医療福祉	A 医療	a インフォームドコンセント
		b 安全管理（アクシデント、インシデント、転倒予防、感染対策等）
		c 個人情報保護
		d チーム医療、多職種連携
		e 医療面接
		f EBM〈根拠に基づいた医療〉
		g NBM（narrative-based medicine）〈物語に基づいた医療〉
		h 医療の供給体制（一次・二次・三次医療、救急・災害・へき地医療、地域医療）
	B 保健	a 保健予防の概念（一次・二次・三次予防）
		b 健康管理、健康増進
		c 環境保健
		d 地域保健
		e 母子保健
		f 学校保健
		g 産業保健
		h 高齢者保健
		i 精神保健
		j 感染症対策（届出、予防を含む）
	C 医療・福祉制度	a 医療保険制度
		b 公的扶助制度
		c 介護保険制度
	D 関連法規	a 医事法規 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療法</li> <li>② 理学療法士及び作業療法士法</li> </ul>
		b 保健衛生法規 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域保健法</li> <li>② 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律〈精神保健福祉法〉</li> </ul>
		c 福祉関係法規 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律〈障害者総合支援法〉</li> <li>② 児童福祉法</li> <li>③ 身体障害者福祉法</li> <li>④ 知的障害者福祉法</li> <li>⑤ 老人福祉法</li> <li>⑥ 障害者の雇用の促進等に関する法律〈障害者雇用促進法〉</li> <li>⑦ 発達障害者支援法</li> </ul>

### Ⅲ 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

大項目	中項目	小項目
2 リハビリテーション概論	A 理念	a リハビリテーションの定義・歴史
		b ノーマライゼーション・自立生活〈independent living、IL〉
		c QOL〈quality of life〉
		d 総合リハビリテーション
	B 疾病・生活機能の概念と分類	a 国際疾病分類〈International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems、ICD〉
		b 国際生活機能分類〈International Classification of Functioning, Disability and Health、ICF〉
	C 患者・障害者の心理・社会的側面	a 患者・障害者の心理
		b 障害受容
		c 心理教育（患者教育、家族教室）
		d 自立支援、就労支援・両立支援
	D リハビリテーション医療	a リハビリテーション関連職種とその役割
		b チームアプローチ（多職種連携の理解を含む）
		c 評価会議（カンファレンス）とゴール設定
		d リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
	E リハビリテーションの諸相	a 医学的リハビリテーション
		b 教育的リハビリテーション
		c 職業的リハビリテーション
		d 社会的リハビリテーション
		e 地域リハビリテーション
	F 地域包括ケアシステム	a CBR〈community based rehabilitation〉

# 専門分野 (理学療法)

## I 基礎理学療法学

大項目	中項目	小項目
1 理学療法の基本	A 歴史、現状	a 日本と世界の理学療法の歴史と現状
	B 生命・医療倫理	a プロフェッショナリズム
		b ノーマライゼーション
		c 死生観、看取り
	C 社会の理解	a 人間関係論
		b 多様性社会
		c 地域社会
	D 法規、関連制度	a 理学療法士及び作業療法士法
		b 障害者基本法
		c 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律〈障害者総合支援法〉
	E 障害の捉え方	a 国際疾病分類〈International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems、ICD〉
		b 国際生活機能分類〈International Classification of Functioning, Disability and Health、ICF〉
		c NCMRR〈National Center for Medical Rehabilitation Research〉分類、Nagiモデル
	F 臨床疫学	
G 医療統計	a 実験計画法	
	b 推測統計	
	c 妥当性、信頼性	
	d 感度、特異度、過誤、尤度比	
H 根拠に基づいた理学療法	a 診療ガイドライン	
	b エビデンス、推奨グレード	
	c 物語りに基づいた実践〈narrative based practice : NBP〉	
2 理学療法の範囲	A 領域	a 保健、医療、福祉
	B 急性期	
	C 回復期	
	D 生活期	
	E 終末期(人生の最終段階)	
	F 健康維持、健康増進	
	G 予防	a 疾病予防
		b 虚弱予防
		c 再発予防
		d 重症化予防
e 障害予防		
H 研究	a 研究の倫理	
	b 研究の方法	

# I 基礎理学療法学

大項目	中項目	小項目
3 理学療法学の基礎	A 組織	a 細胞、遺伝子
	B 運動発現	a 運動の発現機構
		b 関節構造、関節可動域
		c 筋収縮、筋機能
	C 運動制御	a 運動の制御機構
		b 随意運動のメカニズム
		c 中枢神経系
		d 末梢神経系
	D エネルギー供給	a 呼吸
		b 循環
		c 代謝
		d 消化、吸収
		e 自律神経
	E 認知	a 感覚、知覚
		b 認知
	F 情緒、心理	a 意欲
		b ライフサイクル
		c 障害受容
	G 基本動作	a 姿勢
		b 床上動作
c 移乗		
H 歩行	a 歩行周期	
	b パラメータ（時間因子、距離因子）	
	c 力学的因子	
	d 筋活動	
I 動作障害	a 日常生活活動〈ADL〉	
	b 手段的日常生活活動〈IADL〉	
J 運動学習	a 運動学習理論	
	b 条件付け、フィードバック	
	c 可塑性、再組織化	
K 痛み	a 分類	
	b メカニズム	
	c 制御機構	
L 栄養	a 栄養素	
	b 消化、代謝、体内動態	
	c 摂食行動、摂取基準	
M 薬理	a 薬の定義	
	b 作用機序	
	c 有害反応	
	d 薬物療法と理学療法	
N 疲労	a 末梢性疲労	
	b 中枢性疲労	
O 発達	a 正常発達	
	b 運動・精神の発達遅滞	

## I 基礎理学療法学

大項目	中項目	小項目
3 理学療法学の基礎	P 加齢	a 生理的変化
		b 社会的変化
	Q コミュニケーション	
	R 活動、参加	a 日常生活活動〈ADL〉、手段的日常生活活動〈IADL〉
		b 参加
	S QOL〈quality of life〉	a 健康関連 QOL〈HRQOL〉等
	T 環境	a 環境の構造
b 環境と個人		

## Ⅱ 理学療法管理学

大項目	中項目	小項目
1 職業倫理	A コンプライアンス・法令遵守	a 社会的責任
		b 守秘義務・個人情報保護
		c 説明と同意
		d 医療広告ガイドライン
		e 利害衝突、コンフリクトマネジメント
	B プロフェッショナリズム	a 倫理要綱
		b ジュネーブ宣言、リスボン宣言
		c 患者の自己決定権
		d インフォームド・コンセント
e 守秘義務		
C 行動規範	a パワーハラスメント	
	b セクシャルハラスメント	
	c その他のハラスメント	
2 職場管理	A 情報管理	a 診療記録
		b 書類管理
		c 個人情報保護、情報セキュリティー
	B 多職種連携	a 業務調整
		b カンファレンス
		c 地域連携
	C 安全管理	a リスクマネジメント（インシデント・感染対策含む）
		b 機器の保守点検
		c 機器の配置
	D 労務管理、人事考課	a 雇用・年金制度
		b 報酬管理
	E 労働衛生管理	a 健康管理
		b 作業管理
		c 環境管理
	3 教育	A 理学療法教育の歴史
B 学習内容		a 理学療法カリキュラム
C キャリア支援		a キャリアデザイン
D 生涯学習		a 卒後教育
E 教育学		a 教育原理
	b 教育心理学	
	c 教授方法	
	d 教育評価	
	e 障害児教育	
4 法規・関連制度	A 社会保険制度	a 医療保険制度
		b 介護保険制度
		c 診療報酬

### Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目	
1 目的	A 評価の目的		
2 時期と手順	A 臨床推論		
	B 病期		
	C スクリーニング		
	D 情報収集	a 検査・画像所見等・他職種情報	
		b 一般情報	
		c 医学的情報（血液・生化学検査、各種画像検査、手術、服薬）	
		d 社会的情報	
		e 他職種からの情報	
	E 評価計画の立案と説明		
	F 評価の実施	a 観察	
b 面接			
c 検査・測定			
G 解釈、統合			
H 問題点・利点の抽出			
I 目標設定、治療計画立案			
3 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所所見	a 意識、覚醒、睡眠	
		b バイタルサイン	
		c 栄養状態	
		d 皮膚（褥瘡を含む）	
		e 排尿、排便	
		f 浮腫	
		g 摂食嚥下	
	B 画像評価	a X線	
		b CT、MRI、SPECT、PET等	
		c 超音波エコー	
		d 心電図	
	C 神経生理学的評価	a 筋電図、神経伝導検査、誘発電位、磁気刺激法	
	D 運動学的評価	a 3次元動作解析、床反力分析	
	E 呼吸、循環、代謝	a 呼吸機能	
		b 循環機能	
c 消化・吸収機能			
d 内分泌機能			
e 全身持久力			
f 酸素・エネルギー供給			
g 代謝機能			
h 腎機能			

### Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
3 心身機能、身体構造	F 運動	a 反射
		b 身体計測（四肢長、周径）
		c 姿勢
		d 筋緊張
		e 関節可動域
		f 筋機能（筋力、持久力、協調性）
		g 協調機能
		h 平衡機能
		i バランス
		j 脳神経（運動系）
	G 感覚	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 特殊感覚
		c 脳神経（感覚系）
	H 痛み	a 定義
		b 分類
		c 機序
		d 急性痛、慢性痛
		e 心理的評価
	I 発達	a 全般的発達検査（改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、子どもの能力低下評価法〈PEDI〉等）
		b 原始反射、姿勢反射
		c 運動発達
		d 感覚、知覚、認知
		e 心理・社会的発達
		f 粗大運動能力尺度〈gross motor function measure、GMFM〉、粗大運動能力分類システム〈gross motor function classification system、GMFCS〉
	J 気分	a 抑うつ
		b 情動
		c 関心（アパシー）
	K 認知症	a 病期
		b 認知症（BPSDを含む）
	L 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶・記銘
		d 認知（失認）
		e 行為（失行）
		f コミュニケーション
		g 言語（失語）
		h 遂行機能、前頭葉機能

### Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
4 基本動作	A 姿勢	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 歩行周期（時間因子、距離因子）
		b 観察、定量的解析
		c 不整地歩行
	E 移動（歩行を除く）	a 障害物回避
		b 階段昇降
		c 走行、跳躍
		d 歩行補助具
e 車椅子		
5 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 食事
		b 排泄
		c 更衣
		d 整容
		e 入浴
		f コミュニケーション
		g ADL 検査（FIM、Barthel index 等）
		h 手段的日常生活活動〈IADL〉
	B 参加	a 職業
		b 趣味、余暇活動
c 社会交流		
6 背景因子等	A 個人因子	a 生活歴、職業歴
		b 興味・価値
		c 自己効力感
		d 生活範囲
	B 環境因子	a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
	C QOL〈quality of life〉	
	7 義肢、装具、支援機器、自助具等	A 義肢、装具
b 装具（上肢、下肢、体幹）		
c 適合評価		
B 支援機器、自助具等		a 車椅子、座位保持装置
		b 移乗機器
		c 歩行補助具
		d 自助具・日常生活用具
		e 福祉用具
		f 適合評価
		g 支援機器

### Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	A 骨関節	a 病期
		b 変形性関節症、人工関節置換術後
		c 骨折、脱臼、靭帯損傷
		d 関節リウマチとその近縁疾患
		e スポーツ外傷・障害
		f 外傷、障害
		g 脊椎疾患
		h 腰痛症
		i 切断（先天奇形を含む）
		j 肩関節周囲炎、腱板損傷
		k 骨粗鬆症
		l 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死を含む）
		m 先天性異常、系統疾患
		n 骨軟部腫瘍
	B 中枢神経	a 病期
		b 脳血管障害（片麻痺を含む）
		c Parkinson 病とその関連疾患
		d 脊髄小脳変性症〈SCD〉
		e 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		f 多発性硬化症〈MS〉
		g 外傷性脳損傷〈TBI〉
		h 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）
		i 脳腫瘍
		C 神経筋疾患
	b 筋ジストロフィー	
	c 多発性筋炎、皮膚筋炎	
	d 重症筋無力症	
	e ニューロパチー（Guillain-Barré 症候群を含む）	
	f 末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む）	
	D 発達	a 病期
		b 脳性麻痺
		c 二分脊椎
		d 発達性協調運動障害
		e Down 症候群
		f 骨系統疾患（ペルテス病等）
		g 先天性神経筋疾患
		h 早産児
		i 重症心身障害児

### Ⅲ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	E 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f 人工呼吸器管理状態
	F 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
		c 心不全（急性・慢性）
		d 末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、Raynaud症候群等）
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
		f 深部静脈血栓症
	G 代謝	a 病期
		b 糖尿病
		c 肥満
		d 慢性腎臓病
	H 感覚器	a 視覚障害
		b 聴覚・前庭障害
	I 集中治療	a 救命救急
		b 集中治療・クリティカルケア
		c モニタリング
		d 人工呼吸器
	J 廃用症候群	
	K がん等	a 病期
		b 周術期
		c リンパ浮腫
d 骨転移		
e 緩和		
L サルコペニア、フレイル		
M 認知障害	a 認知症	
	b 高次脳機能障害（失語、失行、失認等）	
N 有痛性疾患・障害	a 急性痛	
	b 慢性痛	
	c がん性疼痛	
O 皮膚障害	a 熱傷	
	b 褥瘡	
P その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害	
	b 排泄障害	
	c 精神疾患	
	d 多疾患併存	
	e 産科・婦人科領域の疾患、産前産後	
9 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業理学療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援

## IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 目的	
	B 治療プログラムの立案	a 診療ガイドライン
		b 理学療法プログラムの立案
	C リスク管理	a 疾患別
		b 病期別
		c ライフステージ別
		d 褥瘡の予防と治療
		e 転倒の予防と治療
		f 救急措置
g 喀痰等の吸引		
2 運動療法	A 運動療法	a 全身調整運動
		b ポジショニング・良肢位の保持
		c 関節可動域運動
		d 筋力増強運動
		e ストレッチング
		f 神経筋再教育
		g 筋持久力
		h 全身持久力
		i 感覚・知覚再教育
		j 協調運動
		k バランス練習
		l 基本姿勢保持練習
		m 基本動作練習
		n 歩行練習
		o 痛みに対する運動療法
		p 運動学習
		q 発達障害に対する運動療法
		r 各種の治療手技
3 物理療法	A 物理療法	a 温熱・寒冷療法
		b 電気刺激療法
		c 電磁波療法（超短波、極超短波）
		d 光線療法
		e 超音波療法
		f 水治療法
		g 牽引療法
		h マッサージ
4 義肢、装具、支援機器、自助具等	A 義肢、装具、支援機器、自助具等	a 義肢（義手、義足）
		b 装具（上肢、下肢、体幹）
		c 車椅子、座位保持装置
		d 移乗機器
		e 歩行補助具
		f 自助具・日常生活用具
		g 適合技術
		h 支援機器

## IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
5 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所状態	a 意識、覚醒
		b バイタルサイン
		c 栄養状態
		d 皮膚（褥瘡を含む）
		e 排尿、排便
		f 浮腫
	B 呼吸、循環、代謝	a 呼吸機能
		b 循環機能
		c 全身持久力
		d 酸素・エネルギー供給
		e 代謝機能
	C 運動	a 関節可動域
		b 筋力、筋持久力
		c 全身持久力
		d 筋緊張
		e 協調機能
		f 平衡機能
		g 脳神経（運動系）
	D 感覚	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 特殊感覚
		c 脳神経（感覚系）
	E 痛み	a 急性痛
		b 慢性痛
c 集学的・包括的アプローチ		
F 発達	a 運動発達	
	b 通学・通級支援	
G 高次脳機能	a 感情	
	b 注意	
	c 記憶	
	d 認知、行為、コミュニケーション	
	e 遂行機能、前頭葉機能	
H 摂食嚥下		
6 基本動作	A 姿勢保持	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 筋力、支持性
		b バランス
		c テンポ、リズム
		d 不整地歩行、応用歩行
	E 移動（歩行を除く）	a 障害物回避
		b 階段昇降
		c 走行、跳躍
d 歩行補助具		
e 車椅子		

## IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目	
7 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 食事	
		b 排泄	
		c 更衣	
		d 整容	
		e 入浴	
		f コミュニケーション	
		g 手段の日常生活活動〈IADL〉	
B 参加	a 職業		
	b 趣味、余暇活動		
	c 社会交流		
8 背景因子等	A 個人因子	a 興味・価値	
		b 自己効力感	
		c 生活範囲	
	B 環境因子	a 家族、家庭	
		b 住環境	
		c 地域環境	
		d 職場環境	
	C QOL〈quality of life〉		
	9 疾患、障害	A 骨関節	a 病期
			b 変形性関節症、人工関節置換術後
c 骨折、脱臼、靭帯損傷			
d 関節リウマチとその近縁疾患			
e スポーツ外傷・障害			
f 外傷、障害			
g 脊椎疾患			
h 腰痛症			
i 切断（先天奇形を含む）			
j 肩関節周囲炎、腱板損傷			
k 骨粗鬆症			
l 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死を含む）			
m 先天性異常、系統疾患			
n 骨軟部腫瘍			
B 中枢神経		a 病期	
		b 脳血管障害（片麻痺を含む）	
		c Parkinson 病とその関連疾患	
		d 脊髄小脳変性症〈SCD〉	
		e 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉	
		f 多発性硬化症〈MS〉	
		g 外傷性脳損傷〈TBI〉	
		h 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）	
		i 脳腫瘍	

## IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
9 疾患、障害	C 神経筋疾患	a 病期
		b 筋ジストロフィー
		c 多発性筋炎、皮膚筋炎
		d 重症筋無力症
		e ニューロパチー（Guillain-Barré 症候群を含む）
		f 末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む）
	D 発達	a 病期
		b 脳性麻痺
		c 二分脊椎
		d 発達性協調運動障害
		e Down 症候群
		f 骨系統疾患（ペルテス病等）
		g 先天性神経筋疾患
		h 早産児
		i 重症心身障害児
	E 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患（COPD）
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f 人工呼吸器管理状態
	F 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
		c 心不全（急性・慢性）
		d 末梢動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、Raynaud 症候群等）
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
		f 深部静脈血栓症
	G 代謝	a 病期
		b 糖尿病
		c 肥満
		d 慢性腎臓病
	H 感覚器	a 視覚障害を合併する歩行・生活指導
		b 前庭性めまいに対する運動療法
	I 集中治療	a 救命救急
		b 集中治療・クリティカルケア
		c モニタリング
d 人工呼吸器		
J 廃用症候群		

## IV 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
9 疾患、障害	K がん等	a 病期
		b 周術期
		c リンパ浮腫
		d 骨転移
		e 緩和ケア
	L サルコペニア、フレイル	
	M 認知障害	a 認知症
		b 高次脳機能障害（失語、失行、失認等）
	N 有痛性疾患・障害	a 急性痛
		b 慢性痛
		c がん性疼痛
	O 皮膚障害	a 熱傷
		b 褥瘡
	P その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害
		b 排泄障害
c 精神疾患		
d 多疾患併存		
e 産科・婦人科領域の疾患、産前産後		
10 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業理学療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援

## V 地域理学療法学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 地域概念と制度	a 地域とは
		b 地域における障害者（障害児を含む）・高齢者
		c 地域包括ケアシステム
		d 地域医療構想
		e 地域リハビリテーション〈Community Based Rehabilitation、CBR〉、自立生活〈independent living、IL〉、ノーマライゼーション
	B 地域リハビリテーション	a 歴史
		b 概念と動向
		c リハビリテーションの理念
	C 地域理学療法	a 理念と目的
		b 多職種による協働
		c 地域での連携
		d 病態と病期に応じた評価と治療
		e 訪問理学療法
		f 通所理学療法
		g 施設での理学療法（介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、介護医療院等）
		h 小児の理学療法（通所施設、児童発達支援施設等）
	D 災害時	a 災害時の支援
		b 国際支援
	E 産業理学療法	
	F 学校保健	a 特別支援教育、スポーツ支援
	G 緩和ケア・人生の最終段階	
	H 健康維持、健康増進	
	I 母子保健	a 早産児、発達性協調運動障害、重症心身障害児
J 予防	a 疾病予防	
	b 再発予防	
	c 障害予防	
	d 虚弱予防、サルコペニア、フレイル	
	e 重症化予防	
K バリアフリーとユニバーサルデザイン	a 社会環境整備	
	b 住環境整備	
	c 家屋改造	
L 福祉用具	a 福祉用具導入の考え方	
	b 代表的な福祉用具	
	c 自立生活支援機器（環境制御装置等を含む）	
	d スポーツ・レクリエーション用具	
	e IT・ICTの導入と展開	
M 家族への指導	a 家族等への指導支援の目的	
	b 介助・支援方法	

## V 地域理学療法学

大項目	中項目	小項目
2 評価と支援	A 施設入所者	a 廃用症候群
		b 精神・認知障害
	B 在宅（訪問、通所）	c 脳血管障害
	C 生活期	d 骨関節障害
	D 終末期(人生の最終段階)	e 神経障害
		f 呼吸障害
		g 循環障害
		h 悪性腫瘍
		i 代謝障害
		j 発達障害
		k 住環境
		l 生活状況、社会参加支援（就労支援を含む）
3 安全管理	A 感染予防	
	B 急変時の対応	

## VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目
1 実習前準備	A 医療倫理	a 社会的責任
		b インフォームドコンセント
	B 理学療法における倫理	a 理学療法士の倫理（患者の権利、理学療法士の義務）
	C 安全管理	a アクシデント、インシデント、転倒予防、感染対策等
	D 感染予防	a 標準予防策（手指衛生、咳エチケット等）
		b マスク、防護服、手袋など
		c 感染区域
	E 個人情報保護、情報管理	
	F 事故・過誤の対応	
	G 対人関係技法	a 対象者との関係構築
b 理学療法士としてのチームでの関係構築		
c コミュニケーション、身だしなみ、態度		
H 医療面接	a 傾聴、面接者の態度等	
I 実習前知識技能評価	a 態度・知識・技能	
	b 行動規範（ハラスメント予防）	
2 医療提供施設実習実施内容	A 診療参加型実習	a 指導体制
		b 能動的学習等
	B 情報収集	a 他部門、診療録
	C 医学的情報の理解	a 生化学検査
		b 生理検査
		c 画像検査
		d 医療機器
		e 手術記録
		f 服薬状況
	D 検査、測定	a 理学療法の検査
	E 問題点の抽出	
	F 全体像の把握	
	G 目標の設定	
	H 治療プログラム立案	a 立案、実施
b プログラム修正		
I 他部門との連携	a チーム医療	
	b 多職種連携	
J 記録、報告	a 評価・治療経過の記録と報告	
	b 問題志向型医療記録（POMR）	
	c SOAP（主観的所見、客観的所見、評価、計画）	
	d 症例報告	
K 地域理学療法		
L 実習前・後評価	a 医療面接、実技、OSCE 等	

## VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目
3 地域実習実施内容	A 情報収集	a 他部門、診療録
	B 通所リハビリテーション	
	C 訪問リハビリテーション	
	D 多職種による協働	
	E ケアプラン	
4 実習後評価	A 実習で学ぶべき内容	a 態度
		b 知識
		c 技能
		d プロフェッショナリズム
		e 思考力・判断力・表現力
		f 主体性・多様性・協働性



# 専門分野 （作業療法）

# I 基礎作業療法学

大項目	中項目	小項目
1 作業療法の基本	A 歴史、現状	a 日本と世界の作業療法
	B 生命・医療倫理	a プロフェッショナリズム
		b ノーマライゼーション
		c ユニバーサルデザイン
		d 死生観・看取り
	C 法規、関連制度	a 理学療法士及び作業療法士法
		b 医療保険制度
		c 介護保険制度
		d 障害者基本法
		e 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律〈障害者総合支援法〉
		f 障害者権利条約
		g 障害者虐待防止法
		h 地域包括ケアシステム
	D 疾病・生活機能の概念と分類	a 国際疾病分類〈ICD〉
		b 国際生活機能分類〈ICF〉
		c 米国精神医学会精神疾患診断分類〈DSM〉
	E 臨床疫学	a EBM
	F 医療統計	a 記述統計
b 推測統計		
c 感度、特異度、尤度比、妥当性、信頼性		
G エビデンスに基づく作業療法	a クリニカルリーズニング	
	b 診療ガイドライン	
	c 推奨グレード	
	d Narrative Based Medicine 〈NBM〉	
H 過程	a スクリーニング	
	b 評価	
	c 治療計画	
	d 治療介入	
	e 効果判定	
	f 記録、報告	
2 作業療法の範囲	A 領域	a 保健、医療、福祉
		b 身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域
	B 急性期	
	C 回復期	
	D 生活期	
	E 終末期(人生の最終段階)	
	F 健康維持、健康増進	
	G 予防	a 疾病予防
b 再発予防		
c 障害予防		
d 重症化予防		

## I 基礎作業療法学

大項目	中項目	小項目
2 作業療法の範囲	H 研究、教育	a 研究倫理
		b 研究方法
		c 多職種連携教育
		d 養成教育と生涯教育
	I 災害時対応	
	J 国際協力	
3 作業療法学の基礎	A 作業の分類	a 日常生活活動〈ADL〉
		b 手段的日常生活活動〈IADL〉
		c 生産的活動
		d 余暇活動・遊び
		e 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉
	B 作業遂行要因	a 身体機能
		b 感覚、知覚、認知
		c 情緒、感情、心理
		d 意志、価値、興味
		e 役割、習慣
	C 作業の分析	a 作業特性
		b 作業過程
		c 作業環境

## II 作業療法管理学

大項目	中項目	小項目
1 職業倫理	A コンプライアンス・法令遵守	a 守秘義務・個人情報保護
		b 説明と同意
		c 医療広告ガイドライン
		d 利害衝突、コンフリクトマネジメント
	B プロフェッショナリズム	a 倫理要綱
		b ジュネーブ宣言、リスボン宣言
		c 患者の自己決定権
		d インフォームド・コンセント
		e 守秘義務
C 行動規範	a ハラスメント	
b 身体拘束、虐待		
2 職場管理	A 組織マネジメント	a 業務管理
		b ハラスメント
		c 労働時間管理
		d 人材管理
		e 医療の質的保障
	B 医療安全	a 感染予防・感染対策
		b 不衛生・不潔
		c ヒューマンエラー
		d インシデントとアクシデント
		e リスクコミュニケーション
		f 医療機器保持管理・機器配置
	C 情報管理	a 個人情報保護
		b 臨床記録、業務記録
		c 情報セキュリティ
	D 健康管理	a ストレスマネジメント
		b 健康診断
3 教育	A 養成教育	a 指定規則
		b カリキュラム
		c 臨床実習
	B 卒後教育	a 職能団体
		b 認定制度
		c 自己研鑽
	C 教育学	a 教育原理
		b 教育心理学
		c 教授方法
d 教育評価		
e 障害児教育		
4 法規・関連制度	A 社会保険制度	a 医療保険制度
		b 介護保険制度
		c 診療報酬
	B 障害・福祉サービス	a 障害者総合支援法
		b 障害者基本法

## Ⅱ 作業療法管理学

大項目	中項目	小項目
4 法規・関連制度	C 就労支援	a 就労移行支援（障害者総合支援法）
		b 就労継続支援（障害者総合支援法）
		c 就労準備支援（生活困窮者自立支援法）
		d 就労定着支援（改正障害者総合支援法）
	D 介護予防	a 介護予防・日常生活支援総合事業
		b 保健指導
		c 地域ケア会議
	E その他	a 心神喪失者等医療観察法
		b 地域保健法
		c 学校教育法
		d 産業保健法

### Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
1 目的	A 評価の目的	
2 時期と手順	A スクリーニング	
	B 初期・中期・最終	
	C 情報収集	a 検査・医用画像等
		b 服薬
	D 評価計画の立案と説明	
	E 評価の実施	a 観察
		b 面接
		c 検査
d 測定		
F 全体像の把握		
G 対応すべき生活機能と障害	a 肯定的側面	
	b 否定的側面	
H 目標設定		
3 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所所見	a 意識、バイタルサイン、睡眠
		b 神経生理学的評価（神経伝導速度検査、筋電図検査）
		c 栄養状態
		d 皮膚（褥瘡を含む）
		e 排尿、排便
		f 浮腫
	B 画像評価	a X線
		b CT、MRI、SPECT、PET等
		c 超音波エコー
		d 心電図
	C 呼吸、循環、代謝	a 呼吸機能
		b 循環機能
		c 代謝機能
		d 全身持久力
	D 摂食嚥下	a 摂食行動
		b 摂食嚥下
	E 運動	a 反射
		b 身体計測
		c 関節可動域、変形等
		d 筋力
e 持久力（局所、全身）		
f 協調性		
g 巧緻性		
h 平衡機能		
i 脳神経（運動系）		
j 上肢の総合的機能		

### Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
3 心身機能、身体構造	F 感覚	a 体性感覚（表在感覚、深部感覚）
		b 特殊感覚
		c 脳神経（感覚系）
	G 痛み	a 痛みの分類
	H 発達	a 全般的発達（改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、児童向けウィスクラー知能検査〈WISC〉、子どもの能力低下評価法〈PEDI〉、新版K式発達検査、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査〈JMAP〉等）
		b 運動発達
		c 感覚・知覚・認知発達
		d 心理・社会発達
	I 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶
		d 認知
		e 行為
		f 言語
g コミュニケーション		
h 遂行機能、前頭葉機能		
J 精神・心理	a 精神症状	
	b 心理検査	
	c 社会的認知	
4 基本動作	A 姿勢	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 歩行周期（時間因子、距離因子）
	E 観察・定量評価	a 3次元動作解析
		b 床反力
		c 圧分布評価
d 重心動揺		
e 筋活動		
5 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 起居、移乗、移動
		b 食事
		c 排泄
		d 更衣
		e 整容
		f 入浴
		g コミュニケーション
		h ADL検査（FIM、Barthel index等）
	B 手段的日常生活活動〈IADL〉	a 家事、金銭管理、交通機関の利用等
	C 余暇活動、遊び	

### Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目	
5 活動、参加	D 職業関連活動	a 職業前評価	
		b 職業能力評価	
	E 教育関連活動	a 就学前	
		b 就学支援	
	F 参加	a 対人技能	
		b 集団技能、交流技能	
		c 役割	
		d 家庭・地域での生活支援	
		e 学校教育現場	
		f 生活範囲	
G 生活行為向上マネジメント	a 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉		
6 背景因子等	A 個人因子	a 生活歴、作業歴	
		b 興味、価値観	
		c 作業に関する自己評価	
		d 生活時間	
	B 環境因子	a 家族、家庭	
		b 住環境	
		c 地域環境	
		d 職場環境	
		e 学校環境	
	C QOL〈Quality of Life〉		
	7 義肢、装具、支援機器、 自助具等	A 義肢、装具	a 義肢（義手、義足）
			b 装具（上肢、下肢、体幹）
		B 支援機器、自助具等	a 車椅子、座位保持装置
b ベッド・寝具			
c 移乗機器			
d 歩行補助具			
e ロボット・支援機器			
f 自助具			
g 日常生活用具			

### Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	A 精神・心理	a 病期
		b 器質性精神障害（症状性を含む）
		c 精神作用物質使用による精神および行動の障害
		d 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
		e 気分障害〈感情障害〉
		f 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
		g 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
		h 成人のパーソナリティ及び行動の障害
		i 精神遅滞（知的障害）
		j 心理的発達障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）
		k 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害を含む）
		l てんかん
		B 認知症
	b 認知症（BPSD を含む）	
	C 高次脳機能障害	a 病期
		b 感情
		c 注意
		d 記憶
		e 認知
		f 行為
		g 言語、コミュニケーション
		h 遂行機能、前頭葉機能
	D 骨関節	a 病期
		b 変形性関節症
		c 骨折、脱臼、靭帯損傷
		d 関節リウマチとその近縁疾患
		e 外傷、障害
		f 切断（先天奇形を含む）
		g 骨形成不全
	E 中枢神経	a 病期
		b 脳血管障害（片麻痺を含む）
		c Parkinson 病とその関連疾患
		d 脊髄小脳変性症〈SCD〉
		e 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		f 多発性硬化症〈MS〉
		g 外傷性脳損傷〈TBI〉
		h 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）
		i 脳腫瘍

### Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	F 神経筋疾患	a 病期
		b 筋ジストロフィー
		c 多発性筋炎、皮膚筋炎
		d 重症筋無力症
		e ニューロパチー (Guillain-Barré 症候群を含む)
		f 末梢神経損傷 (腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む)
	G 発達	a 病期
		b 脳性麻痺
		c 二分脊椎
		d 運動発達遅滞
		e 重症心身障害
		f Down 症候群
		g 精神・心理的発達の障害 (特異的発達障害、限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害を含む)
	H 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f ICU 管理
		g 人工呼吸器管理状態
	I 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患 (心筋梗塞、狭心症)
		c 心不全 (急性・慢性)
		d 末梢動脈疾患
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
		f 閉塞性動脈硬化症
		g Raynaud 症候群
h 深部静脈血栓症		
J 代謝	a 病期	
	b 糖尿病	
	c 肥満	
	d 慢性腎臓病	
K 感覚器	a 視覚障害	
	b 聴覚・前庭障害	
L 廃用症候群	a サルコペニア、フレイル	
M がん等	a 病期	
	b 周術期	
	c リンパ浮腫	
	d 骨転移	
	e 緩和	

### Ⅲ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
8 疾患、障害	N 熱傷	
	O その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害、有痛性疾患等 b 多疾患併存
9 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業作業療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援
	C リエゾン精神医療	a リエゾン作業療法を含む

## IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 目的	
	B 治療プログラムの立案	a 診療ガイドライン
		b 作業療法プログラムの立案
	C リスク管理	a 疾患別
		b 病期別
		c ライフステージ別
		d 褥瘡の予防と治療
e 喀痰等の吸引		
f フレイルの予防と対応		
2 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所状態	a 意識、覚醒
		b バイタルサイン
		c 栄養状態
		d 皮膚（褥瘡を含む）
		e 排尿、排便
		f 浮腫
		g 物理的手段（温熱療法を含む）
	B 呼吸、循環、代謝	a 呼吸系、循環系（喀痰等の吸引を含む）
		b 全身調整、全身持久力
	C 摂食嚥下	
	D 運動	a ポジショニング
		b 関節運動、関節保護法
		c 神経・筋再教育
		d 筋力、筋持久力
		e 協調性
		f 巧緻性
		g バランス
		h 上肢の総合的機能
	E 感覚	a 表在感覚・知覚
		b 深部感覚・知覚
		c 複合感覚・知覚
		d その他（脳神経の感覚系を含む）
	F 痛み	a 急性痛
		b 慢性痛
	G 発達	a 姿勢・運動発達
		b 感覚・知覚・認知の発達
		c 心理・社会的発達
	H 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶
		d 認知
		e 行為
		f 言語
		g コミュニケーション
		h 遂行機能、前頭葉機能

## IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
2 心身機能、身体構造	I 精神・心理	a 治療的態度、関わり方
		b 時間、頻度
		c 集団
		d 場所
3 基本動作	A 姿勢保持	a 臥位・座位、立位
	B 床上動作	a 寝返り、起き上がり、移動
	C 移乗	
	D 歩行	a 筋力、支持性 b バランス c テンポ、リズム d 不整地歩行、応用歩行
4 活動、参加	A 日常生活活動〈ADL〉	a 起居、移乗、移動
		b 食事
		c 排泄
		d 更衣
		e 整容
		f 入浴
		g コミュニケーション
	B 手段的日常生活活動〈IADL〉	a 家事、金融機関、交通機関の利用等
	C 余暇活動、遊び	
	D 職業関連活動	
E 教育関連活動	a 就学前	
	b 就学支援	
F 参加	a 対人技能	
	b 集団技能、交流技能	
	c 役割	
	d 学校教育	
G 生活行為向上マネジメント	a 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉	
5 背景因子等	A 個人因子	a 生活時間
	B 環境因子	a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
		e 学校教育
C QOL		

## IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目	
6 義肢、装具、支援機器、 自助具等	A 義肢、装具	a 義肢（義手、義足）	
		b 装具（上肢、下肢、体幹）	
	B 支援機器、自助具等	a 車椅子、座位保持装置	
		b ベッド・寝具	
		c 移乗機器	
		d 歩行補助具	
		e ロボット・支援機器	
		f 自助具	
		g 日常生活用具	
7 疾患、障害	A 精神・心理	a 症状性を含む器質性精神障害	
		b 精神作用物質使用による精神および行動の障害	
		c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害	
		d 気分障害〈感情障害〉	
		e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	
		f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	
		g 成人のパーソナリティ及び行動の障害	
		h 精神遅滞（知的障害）	
		i 心理的発達障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）	
		j 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害を含む）	
		k てんかん	
		B 認知症	a 認知症（BPSDを含む）
		C 高次脳機能障害	a 感情
	b 注意		
	c 記憶		
	d 認知		
	e 行為		
	f 言語、コミュニケーション		
	g 遂行機能、前頭葉機能		
	D 骨関節	a 変形性関節症	
		b 骨折、脱臼、靭帯損傷	
		c 関節リウマチとその近縁疾患	
		d 外傷、障害	
		e 切断（先天奇形を含む）	
		f 骨形成不全	

## IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
7 疾患、障害	E 中枢神経	a 脳血管障害（片麻痺を含む）
		b Parkinson病とその関連疾患
		c 脊髄小脳変性症〈SCD〉
		d 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		e 多発性硬化症〈MS〉
		f 外傷性脳損傷〈TBI〉
		g 脊髄損傷（頸髄損傷を含む）
		h 心理的発達障害（限局性学習障害、自閉症スペクトラム障害を含む）
	F 神経筋疾患	a 筋ジストロフィー
		b 多発性筋炎、皮膚筋炎
		c 重症筋無力症
		d ニューロパチー（Guillain-Barré症候群を含む）
		e 末梢神経損傷（腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含む）
	G 発達	a 脳性麻痺
		b 二分脊椎
		c 運動発達遅滞
		d 重症心身障害
		e Down症候群
		f 精神・心理的発達障害（自閉症スペクトラム障害広汎性発達障害、注意欠如・多動性障害を含む）
	H 呼吸	a 病期
		b 間質性肺炎
		c 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
		d 結核性肺炎
		e 外科術後
		f ICU管理
		g 人工呼吸器管理状態
	I 循環	a 病期
		b 虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
		c 心不全（急性・慢性）
		d 末梢動脈疾患
		e 大動脈疾患、弁膜疾患
	J 代謝	a 病期
		b 糖尿病
		c 肥満
		d 慢性腎臓病
		e 慢性肝疾患
K 感覚器	a 視覚障害	
	b 聴覚・前庭障害	
L 廃用症候群	a サルコペニア、フレイル、ロコモティブ症候群	

## IV 作業療法治療学

大項目	中項目	小項目
7 疾患、障害	M がん等	a 病期
		b 周術期
		c リンパ浮腫
		d 骨転移
		e 緩和ケア
	N 熱傷	
8 保健、予防	O リエゾン精神医療	a リエゾン作業療法を含む
	P その他の疾患・障害	a 摂食嚥下障害、有痛性疾患等
		b 多疾患併存
8 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業作業療法	a 作業関連疾患、治療と仕事の両立支援

## V 地域作業療法学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	A 基礎概念	a 地域とは
		b 地域における障害者（障害児を含む）・高齢者
	B 関連法規、制度	a 地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメント
		b 障害者基本法、障害者総合支援法
		c 精神保健福祉法、医療観察法
		d 社会福祉制度
		e 介護保険制度
		f 社会資源
		g 地域包括ケアシステム
		h 地域保健法
		i 学校教育法
		j 産業保健法
	C 地域リハビリテーション	a 歴史
		b 概念と動向
	D 地域作業療法	a 理念と目的
		b 多職種による連携
		c 訪問作業療法
		d 通所作業療法
		e 施設における作業療法
		f 生活スタイルの見直しと再構築
		g 趣味・生き甲斐活動の開発と獲得
		h 仲間づくり
		i 相談、指導
		j 家族関係の調整
		k QOL〈quality of life〉の維持・向上
	l 家族への介護指導	
	E 災害時の支援	
	F ノーマライゼーション	a バリアフリー
		b ユニバーサルデザイン
		c 合理的配慮
		d コミュニケーション
		e 移動
f 社会的環境整備の働きかけ		
G 健康維持、健康増進		
H 予防	a 疾病予防	
	b 再発予防	
	c 障害予防	
	d 重症化予防	

## V 地域作業療法学

大項目	中項目	小項目
1 基礎	I 義肢、装具、支援機器、 自助具等	a 義肢装具の適応と管理
		b 生活支援機器の適応と管理
		c 自助具の製作、適応と管理
		d 日常生活用具の適応と管理
		e 自立生活支援機器の適応と管理（環境制御装置を含む）
		f スポーツ・レクリエーション用具の適応と管理
		g IT・ICTの導入と展開
2 評価と支援	A 家庭生活支援	a 活動の維持、再構築
		b 介護指導
		c 障害児の子育て支援
	B 地域生活支援	a 生活の支援
		b 地域生活の支援
		c 小児通園施設生活の支援
	C 生活行為向上マネジメント	a 生活行為向上マネジメント〈MTDLP〉
	D 就園・就学支援	a 統合保育の支援
		b 特別支援教育の支援
		c 学校教育支援
	E 雇用・就労支援	a 就労移行支援
		b 就労継続支援
		c 就労準備支援
		d 就労定着支援
		e 一般就労支援
	F 環境整備	a 生活環境、就労環境
	G 福祉用具の適応	a 生活環境、就労環境
	H 施設入所者	a 廃用症候群
	I 在宅（訪問、通所）	b 脳血管障害
	J 生活期	c 骨関節疾患
K 終末期（人生の最終段階）	H K に 共 通	d 神経障害
		e 呼吸障害
		f 循環障害
		g 悪性腫瘍
		h 代謝障害
		i 住環境
		j 生活状況、社会参加支援
3 安全管理	A 感染予防・感染対策	
	B 急変時の対応	
	C 転倒予防	

## VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目	
1 実習前準備	A 医療倫理	a インフォームドコンセント	
	B 安全管理	a アクシデント、インシデント	
	C 感染予防・感染対策	a 標準予防策（手指衛生、咳エチケット等）	
		b マスク、防護服、手袋など	
		c 感染区域	
	D ハラスメント		
	E 作業療法における倫理	a 作業療法士の倫理（作業療法士の義務）	
	F 事故・過誤の対応		
	G 対人関係技法	a 接遇等	
	H 面接		
	I 評価・治療技術	a OSCE	
J 基本的作業療法技能			
2 医療提供施設実習実施内容	A 診療参加型実習	a 指導体制	
		b 能動的学習等	
	B 情報収集	a 他部門、診療録	
		C 医学的情報の理解	a 生化学検査
			b 生理検査
			c 画像検査
			d 医療機器
			e 手術記録
	f 服薬状況		
	D 検査、測定	a 作業療法の検査	
	E 全体像の把握		
	F 対応すべき生活機能と障害	a 肯定的側面	
		b 否定的側面	
G 目標の設定			
H 治療プログラム立案	a 立案、実施		
	b プログラム修正		
I 他部門・多職種との連携	a チーム医療		
	b 多職種連携		
J 記録、報告	a 専門用語		
	b 症例報告		
K 実習前・後評価	a 医療面接、実技、OSCE 等		
3 地域実習実施内容	A 情報収集		
	B 通所リハビリテーション		
	C 訪問リハビリテーション		
	D 行政機関		
	E 学校・放課後等デイサービス		
	F 福祉施設		

## VI 臨床実習

大項目	中項目	小項目
4 実習後評価	A 実習実施内容	a 態度
		b 知識
		c 技能
		d 思考力・判断力・表現力
		e 主体性・多様性・協働性